

## 2019年3月期第1四半期決算に関する主なご質問

Q: 原燃材料コスト上昇の影響が出ているが、元の計画にはどの程度織り込まれていたのか？

A: 実績はほぼ計画で想定していた通りで、半分がエネルギー関連の上昇です。第1四半期では、欧州や南米での差異が大きい一方、北米はそれほど影響を受けていないといった地域差がありました。原油価格の水準が現在の基調で続けば、コストアップはほぼ年間計画に沿った水準になると考えています。

Q: 原燃材料コストの上昇を販売価格にどの程度転嫁できるのか？

A: 自動車用ガラス事業では、販売契約の性質上コストの転嫁は難しいです。建築用ガラス事業ではある程度転嫁が可能であり、各地域で取り組んでいます。欧州や北米ではすでに価格は高いレベルで大幅な値上げは厳しいものの、ある程度は値上げできています。日本では取り組みの最中であることから、その効果は今後出てくると考えています。

Q: ソーラー用ガラスの状況はどうか？

A: 前年同期比、前四半期対比でいずれも大きく量が回復しています。新規投資については着手したばかりです。で、既存の生産能力で出荷しています。

Q: VA売上が増えているというが、具体的にはどの分野か？

A: 全事業について増加していますが、建築用ガラス事業ではソーラー用ガラス、自動車用ガラス事業では欧州を中心に高付加価値フロントガラス、高機能ガラス事業では、ディスプレイやメタシャインなどが伸びています。

Q: 高機能ガラスの営業増益は、増収幅より大きいですが、売上増以外の要因はあるか？

A: 改善は、ディスプレイ事業におけるものが大半です。具体的には、中国におけるアSEMBリー拠点閉鎖など昨年度行った損益改善施策によるコスト低減効果と、売上製品構成の改善です。ディスプレイ事業は当四半期では損益分岐点を超えました。

Q: 無形資産償却前営業利益の差異分析(P7)において、「コストダウン、その他」(△9億円)に含まれる一過性の損失はどれくらいか？

A: 主なものは、ドイツにおけるガラス溶融窯の定期修繕の影響で、数億円ありますが、その他少額の一過性費用もありマイナスとなりました。ガラス溶融窯の定期修繕は、今期はこれ以外に大きなものは想定していません。

Q: 自動車用ガラス事業の北米における一過性の費用とは何か？生産トラブルによるものか？

A: 当社サプライヤーとの何年も前の案件に関する和解費用であり、生産に関するものではありません。

- Q: 第1四半期の個別開示項目はプラスであるが、通期で△70億円のマイナスを見込んでいることから、今後かなりのリストラ費用が発生すると思われるが、何か特殊な要因があるのか？
- A: 大規模なリストラは終了していますが、さらなる効率改善や不採算事業に対処するリストラは継続的に実施しています。今期もコスト基盤改善に向けて一層の取り組みを行うため、個別開示項目費用の計上を計画しています。
- Q: 中国政府のソーラー発電用補助金政策の変更に伴い、ソーラーパネル業界も混乱しているが、影響はあるか？
- A: 中国で生産されているのは結晶シリコンタイプのソーラーパネルが主流ですが、当社の主要顧客は薄膜タイプのソーラーパネルを生産しています。主な納入先は、中国ではなく米国です。米国では、数か月前に政府が中国製の結晶シリコンタイプソーラーパネルに輸入関税をかける政策を発表し、これは当社の顧客にとっては追い風です。結論としては、当社への影響は全くないとは言えないものの、比較的軽微であると考えています。

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。